

一年の労をねぎらい更なる飛躍を合同忘年会に参加

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚3陸尉）は、12月6日（土）、相模原市民会館で行われた、相模原地域自衛隊協力会合同忘年会に参加した。

同会には、所員を含め51名が参加。会長挨拶、来賓紹介等に続き、自衛隊募集相談員副会長（守屋隼人氏）の乾杯の首頭で歓談が始まった。終始和やかな雰囲気ながら、相談員、各協力団体、所員が一年を振り返り、互いに労をねぎらった。また、相模原市や座間市の関係者とも親睦を深めることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

相模原地域事務所は、「今後も、募集相談員、各協力者等との連携を図り、募集広報に邁進していく」としている。



「これから更に人材確保が重要」と語る
自衛官相談員会長（大松 行信氏）

中学校教頭会の部隊研修 自衛隊への関心を振起

神奈川地方協力本部川崎出張所（所長 荒木3陸佐）は12月1日（木）、川崎市立中学校13校（幸（さいわい）支部・中原支部）の教頭会が参加した海上自衛隊部隊研修を支援した。

川崎市は「総合的な学習の時間」への参加が低調であることから、「川崎市の教職員に自衛隊への関心と理解を深めてもらう」という目的で行われた。

研修は、横須賀基地港内クルーズを通して護衛艦や米軍の空母等を見学し、第2術科学校では、海軍機関術資料館と海上自衛隊創設史料館を研修し、海軍の歴史や海上自衛隊の創設に関する説明に熱心に耳を傾けていた。特に、芥川龍之介が海軍術科学校で2年間教師として英語の教鞭を執った逸話には、海軍と芥川龍之介の意外な接点に教育者としての視点から興味を抱いた様子であった。

初めはどこかよそよそしい雰囲気であった研修も終了する頃には「もっとじっくり研修したかった」「学校単位でもまた研修できないか」等の声も聞かれ、関心を持ってもらえたようだ。

川崎出張所は、「今後も、教職員の自衛隊理解への取り組みを積極的に行っていく」としている。



第2術科学校で海軍機関術資料館

入隊・入校予定者に贈る組みひもストラップ

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚3陸尉）は、3月8日（日）に行われる入隊・入校激励会で、入隊・入校予定者に贈る「組みひもストラップ」（横須賀地方総監部が考案したもの）作りを開始した。

このストラップは、相模原自衛官募集相談員の提案で昨年度の入隊・入校激励会において初めて贈呈したところ、大好評であったことから今年も継続することとなった。作成にあたる広報官は、「ひとつひとつのストラップに思いを込めた」と話す。

相模原地域事務所は、「入隊・入校予定者が確実に入隊・入校を果たすよう最後まで気を引き締めていく」としている。



入隊・入校予定者に贈る
「組みひもストラップ作り」に
余念のない広報官